

大津市合流式下水道緊急改善計画変更に関する調査研究

全体期間

2008年度～2009年度

合流式下水道の改善

(目的)

大津市における合流式下水道改善計画は、平成8年度から基礎調査を開始し、平成11年度の「大津市合流式下水道の改善検討委員会」の審議を経て策定されている。しかし、当該計画は平成8年度当時の諸元(水量・水質)による計画であるため、現時点となつては、10年以上経過したものとなっている。

一方、平成19年度には、琵琶湖流域別総合下水道整備計画の見直しが行われ、新たな水量・水質といった計画諸元が策定されている。

今回の合流式下水道改善事業の計画見直しは、そのような計画諸元の見直しを受けて、現在、計画されている対策施設が妥当なものであるかについて検証し、見直しを行ったものである(図-1参照)。

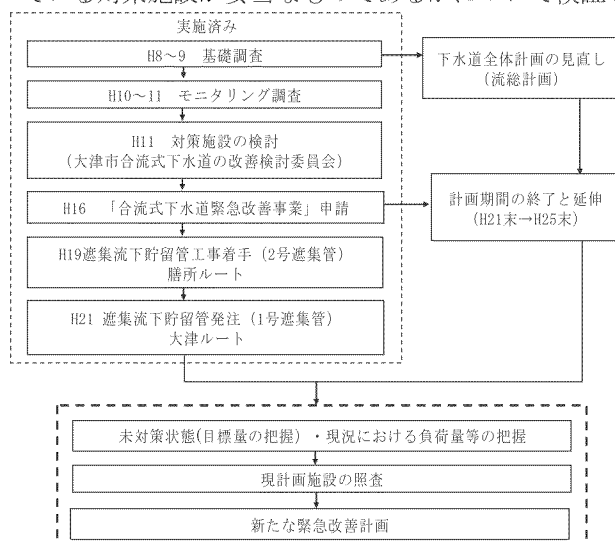


図-1 計画見直しの背景

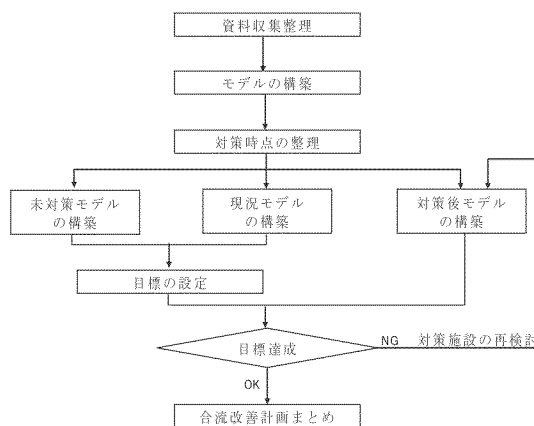


図-2 検討フロー

(結果)

本業務の検討フローを図-2に示す。また、本業務において見直した事項について以下に示す。

(1) 過去の合流改善対策の反映

当初の緊急改善計画の策定以前に行われていた合流改善対策を考慮し、未処理放流回数の削減に関する目標値を設定し直した。

(2) 計画流量、汚水水質の増大への対応

計画流量および汚水水質の増大に伴う簡易処理系の汚濁負荷を抑制するべく、分水堰高を変更し、遮集流下型貯留管の能力を最大限活用することとした。

(3) 現場条件を反映した計画変更

当初の緊急改善計画の策定後に行われた詳細検討を反映し、未処理放流水の取込箇所の変更を行った。

(4) 将来的な対応

重要影響水域および、さらなる水量増大に対応するため、処理場内に地震対策として計画されているバイパス管渠を有効活用し、簡易処理の発生を制限することとした。また、継続的に未処理放流水のモニタリングを行い、市民に対してわかりやすい方法で公表を行うこととした。

大津市からの受託業務

研究担当者：研究第二部 松島 修、田之倉 誠、信澤 雄一郎 【03-5228-6598】

キーワード 合流改善, 計画見直し, 重要影響水域